

八木健の川柳アート

44

川柳・俳句の二本立て

人間の掌には感情線と知能線がある。俳句は情である。川柳は知である。どちらが勝ってもいけない。ふたつが相和してこそ円満な人物になると思いますね。ということは、俳人が川柳をつくり、川柳人も俳句をやるようになるとうろしいわけでは……。

特選

選者・川柳アート
八木健

〔月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者〕



便乗の新車へ靴を脱がされる

松友 順三 (松山市)

便乗の新車へ靴を脱がされる
「すまないねえ、便乗させてもらうよ」「いやあ、いいんだいいんだ。おい君、土足だけは勘弁してくれたまえ。結婚四十年のかみさんは古ぼけて、築三十年のマイホームも傷みだして、ピカピカなのはこの車だけなんだ」

佳作



多すぎて歴代総理覚えられず

高岸サヨ子

高岸サヨ子 (八幡浜市)

多すぎて歴代総理覚えられず
二世議員なら誰でも順番で総理大臣になれることが分かっただけ、ありがたみが薄らいでしまった。折角覚えるなら、在任期間の短い順に覚えてみたらいいんじゃないか。



日曜日パジャマはぎ取る洗濯機

矢田しげを (松山市)

日曜日パジャマはぎ取る洗濯機
日曜日ぐらいいゆつくり寝ていたいもの。しかし、そうはさせないという一句。家電の進化には目をみはるものがありますね。パジャマをはぎ取るのは家電じゃなくて「かかあ天下」だろう。



顔以外ブランド纏うお金持

大政利雄

大政 利雄 (松前町)

顔以外ブランド纏うお金持
全身をブランドでかためると、不思議なことに人間が安っぽく見えるのである。人間は中身で勝負せなあかん。ましてやブランド品と不釣り合いな容貌ではブランド品が嫌がるかもしれんぞ。

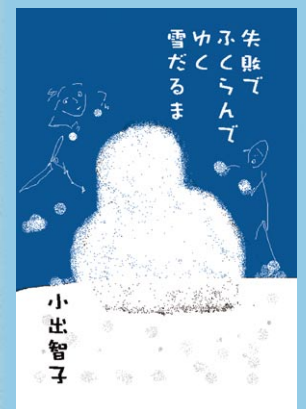


へそくりの本へ迫ってくるはたき

田辺 進水 (松山市)

へそくりの本へ迫ってくるはたき
このあとがどうなるのか……。川柳でドラマの展開の過程を描くのは珍しい。多くは結果を書いて人間心理に共感を求める。この句のように危機感を書いて読者参加型というのも面白いね。

古今の名句



失敗でふくらんでゆく雪だるま

小出智子

小出 智子

失敗でふくらんでゆく雪だるま
大正十五年生まれ。平成九年七十二歳で没。身辺のあれこれを詠んで気取らぬ川柳の佳句が多い。合格をしたのか会釈してくれる。ほっとした処に置いてあるみかん。今にして子が膝に居た頃はよし

今月の八木健



税金を大盤振舞いする総理

やまけん

税金を大盤振舞いする総理
二兆円もの金を選挙対策としてバラまいた。それは麻生さんのポケットマネーじゃないから。結局は税金で賄われるわけ、それを国民多数はありがたく頂くのだ。このように「民」をみくびることが政治の基本姿勢らしいね。

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!